

## 第2回耐震設計規格委員会 議事録

I. 日 時：平成29年10月17日（月）14：00～17：00

II. 場 所：機械振興会館 B3-6 会議室

III. 出席者：（敬称略・順不同）

委員長：渡邊

副委員長：盛川

委員：古屋、糸井、坂井、堀野、茨田、大江、藤田、渡辺、森本、市川（雄）、  
上野、片岡、吉岡、金子、岩田、市川（泰）、水上、出澤、森村

オブザーバー：青山、近藤（経済産業省）、本田（(株)日建設計シビル）、  
大島（東京ガス（株））

K H K：杉浦、小山田、木全、大野、佐野

IV. 配付資料

資料12 第1回耐震設計規格委員会議事録（案）

資料13 規格委員等による意見及び修正案について

資料14 「高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル1）KHKS XXXX-1(201X)」

資料15 「高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル2）KHKS XXXX-2(201X)」

参考資料5 強震動予測手法に関する資料

V. 議事概要

1. 定足数報告

事務局より定足数の報告があり、委員数22名に対し、委員出席21名で定足数（委員数の過半数以上）を満足している旨があった。

2. 議案（1）前回議事録（案）について

P3の7.1の最後（事務局）「できるだけTDに記載できればと考えている」を「できるだけTDに記載できればと考えている。必要に応じて委員会に出席頂くか、書面で質問することにする。」に修正することで、出席委員全員（21名）の賛成により承認された。

3. 議案（2）資料13「高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（案）」についての審議

3.1 事務局より資料13の説明を行った。主な審議内容は以下のとおり。

（委員）p1に関して、次年度以降を次年度着手するとしたらどうか。

（事務局）課題が多いので優先順位をつけたい。5年毎の改定を見据え、ロードマップを作成したい。

（委員）p1に関して、問題点のある項目については、KHKSの付属書に「この項目は、将来この方向にしたい」と具体的に記載したらどうか。

（事務局）KHKSに書くのはなじまないもので、TD（技術文書）に記載したい。

（委員）p3 糸井1「危害予防規定に考え方を入れることを提案する予定」で提案するのは本規格委員会か。

- (事務局) 本規格委員会ではなく、経済産業省委託事業の調査研究委員会で提案することになる。
- (委員) p5 糸井 7 に関して、サイトスペシフィック地震動についてはまだ明確でないところがあるので、全体的に詳しく書かないことにしたらどうか。
- (委員) サイトスペシフィック地震動を選択するとなると、細かく規定されていないと設計できない。
- (事務局) 来年 3 月以降、対応を考えることにしたい。また、KHK で事前評価を行うこと、審査機関や体制について今後検討する。
- (委員) p5 糸井 7 に関して、「適切な位相特性を設定した 3 波以上を用いる必要がある」とあるが定性的な表現（「最大の応答を与える波を用いる」・、「複数波」等）とした方が良い。
- (事務局) 検討する。
- (委員) P9 藤田 1 に関して、建築学会の書籍の年次が古く現在発行の年次を記載した方が良いと思うが、原則から外れるので、新しい年次・文献は解説に書いたらどうか。
- (事務局) 現通達を変更することになるので、METI と相談の上、決めたい。
- (委員) P13 の水上 5 に関して、「重要度分類における低減は行わない」としているが、重要度 Ia と I との間で、差をつけることを考えた方が良い。例えば、検討の地震波数で Ia は 5 波、I は 3 波とか塑性率で差をつける。
- (委員) 重要度については、未検討なので言及しない方が良い。
- (事務局) 重要度分類における低減については言及しないこととする。

3.2 事務局より資料 14 の説明行った。また、事務局より、後日、意見をいただくよう各委員に依頼した。

3.3 事務局より資料 15 の説明を行った。主な審議内容は以下のとおり。

- (委員) p8 の 5 設計用地震動で、5.1 強震動予測手法で算定した申請が出てきた場合、行政では審査が難しい。
- (事務局) 審査機関や体制については、別途検討する必要があると考えている。
- (委員) 「レベル 2 地震動に係る設計用の地震動の算定方法は、5.1 によるものとする。ただし、詳細な検討を必要としない場合には、5.2 によってもよい。」となっているが、「ただし、明らかに 5.1 より 5.2 の値が大きい場合には、5.2 によってもよい。」とした方が良いのでは。
- (委員) 「詳細な検討を必要としない場合」でも「明らかに 5.1 より 5.2 の値が大きい場合」でも、どのような場合か設計者は判断できない。
- (委員) 「5.1 によるものとする。ただし」を「5.1 又は 5.2、それとも両方によってもよい。ただし」または、「当面の間は、5.2 によってもよい。ただし」といった案が考えられる。
- (事務局) 各委員の意見をもとに、修正案を作成する。
- (事務局) サイトスペシフィック地震動による耐震性能評価の具体例があったほうがよいと考え附属書 H を作成したが、現段階では検討や精査が不足していることや、現行の規定をそのまま移行するという原則に反する。規定したほうが良いかどうか意見を頂きたい。

(委員) 削除した方が良い。

(事務局) 削除する。

(委員) p2 目次で、6 応答値の算定を追記した方がバランスが良い。

(事務局) 追記する。

(委員) 重要度分類の設定に用いる事業所の境界線までの距離の図を入れて欲しい。

(事務局) 検討する。

#### 4. その他

・資料 14 及び 15 の電子ファイルを配布するので、2 週間を目安に修正意見等を事務局に連絡することとする。

・また、資料 15 (特に本文 5 項、附属書 G) については、第 2 回委員会の審議を踏まえた修正案を近日中に事務局から委員に配布し、修正意見等を事務局に連絡することとする。

・次回は資料 14 及び 15 を修正した最終案を審議予定。

・次回委員会は、11 月 28 日 (火) 9:30-12:00 に開催することとし、場所等は後日連絡する。

以上